

# 世界の主要国と日本のGDPの比較

2021年1月12日

夢と技術の経営研究所

# 目次

1. GDPと付加価値について-1
2. GDPと付加価値について-2
3. 三面等価の原則
4. 世界各国のGDP-1
5. 世界各国のGDP-2
6. 世界各国のGDP-3
7. 世界各国のGDP-4
8. 世界各国のGDP-5
9. 日本のGDPについて
10. まとめ(考察)

# 1. GDPと付加価値について-1

## ◎GDPについて

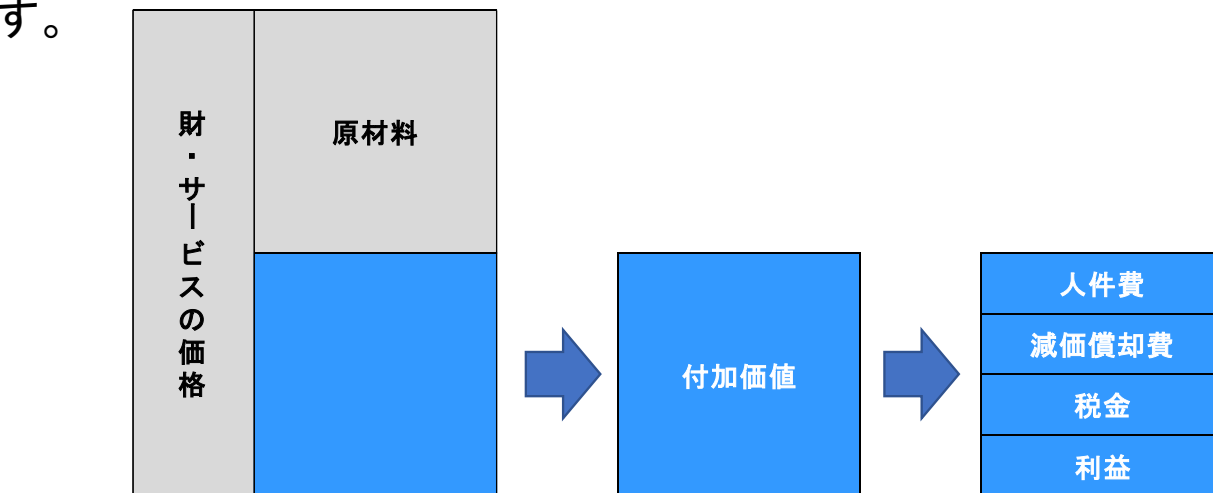
GDPは、Gross Domestic Productの略称で、日本語では国内総生産と言います。国内総生産とは、ある一定期間に、国内で生産された、財・サービスの付加価値の総額のことです。GDPは国内の経済活動の水準を表す指標となり、GDPの伸び率が経済成長率となります。

## ◎付加価値について

付加価値とは、生産において新たに付け加えられた価値です。

・付加価値＝生産物の価値－中間投入物の価値

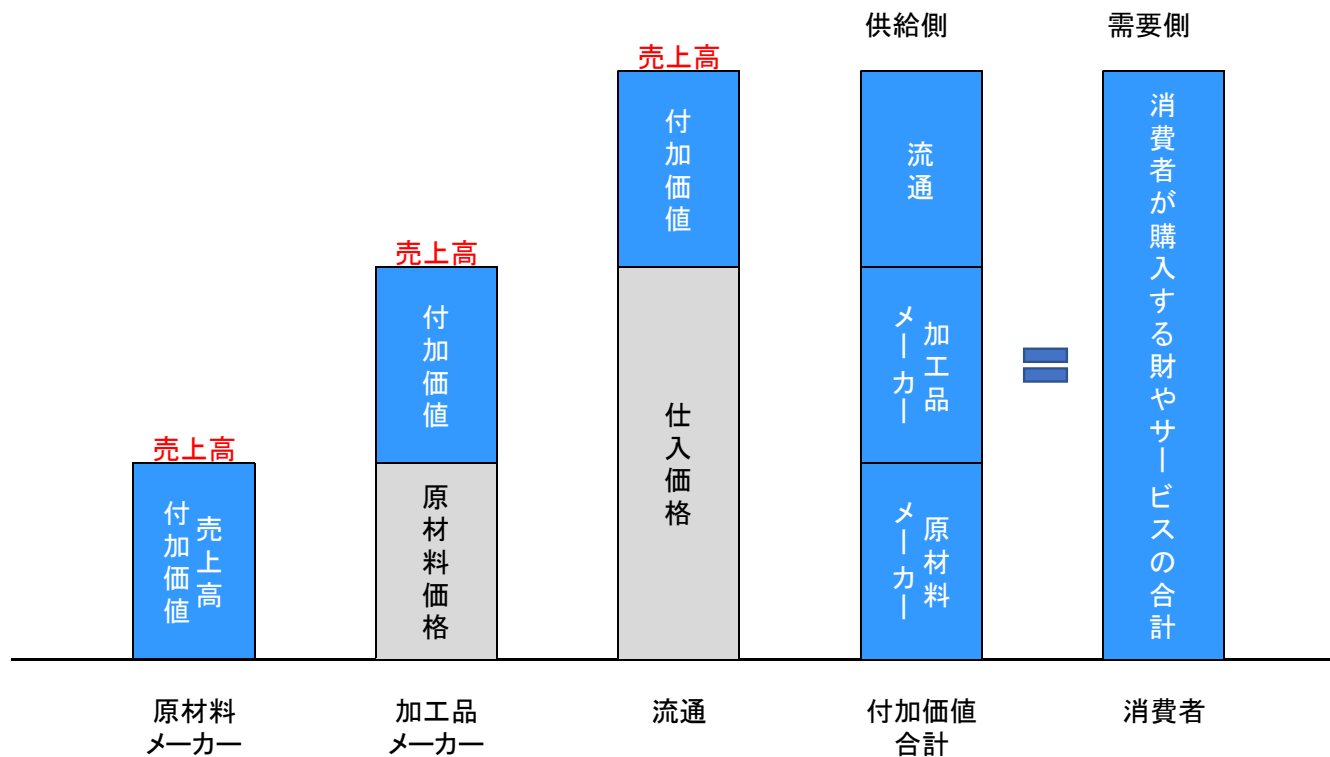
付加価値は、売上高から原材料費などの仕入れを差し引いた粗利益に近い考え方です。ちなみに、経済産業省の施策における定義は、付加価値＝営業利益＋人件費＋減価償却費となっています。



## 2. GDPと付加価値について-2

### ◎付加価値の合計(GDP)

供給側から見たGDPは、次の図のようになります。付加価値の合計＝原材料メーカーの付加価値＋加工品メーカーの付加価値＋流通業者の付加価値です。そして、供給側のGDPと需要側のGDPは等しくなることが分かります。



$$\text{GDP} = \text{付加価値}$$

### 3. 三面等価の原則

#### ◎三面等価の原則

三面等価の原則とは、生産面から見ても、分配面から見ても、支出面から見ても、国内総生産(GDP)は、同じ値になることを示しています。但し、三面等価の原則は、生産されたものが過不足なく需要されていることを仮定としている点について留意しておく必要があります。

・生産面から見たGDP(国内総生産)

付加価値の総計＝国内の総生産額－中間投入額

・分配面から見たGDP

雇用者所得＋営業余剰・混合所得＋固定資本減耗＋間接税－補助金

・支出面から見たGDP(国内総支出)

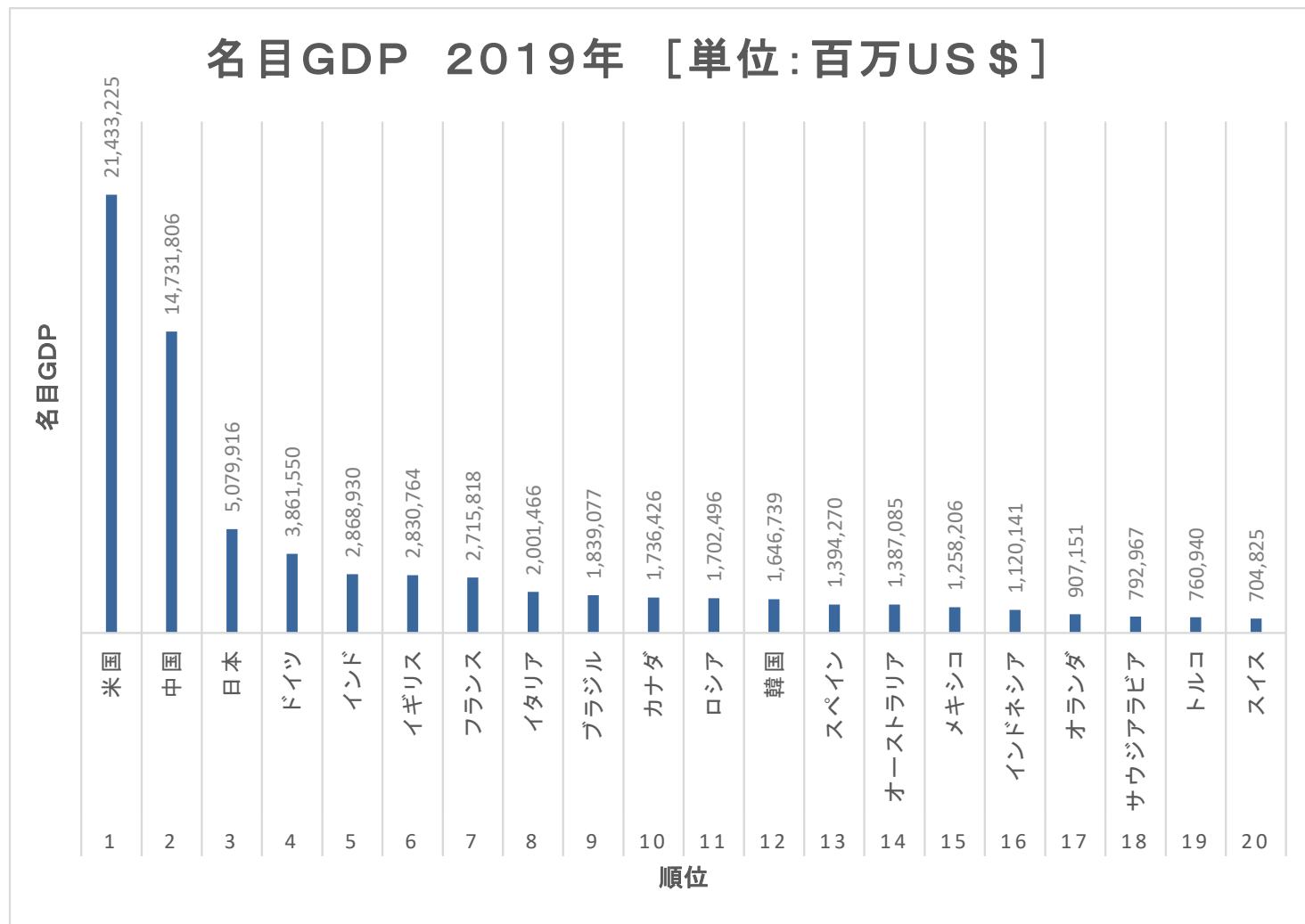
民間消費支出＋総固定資本形成＋在庫品増加＋政府支出(政府消費、政府投資)＋輸出－輸入

【 三面等価の原則 】

生産面	付加価値の合計＝国内の総生産額－中間投入額			
分配面	雇用者報酬	営業余剰・混合所得	固定資本減耗	間接税－補助金
支出面	民間消費支出	国内総固定資本形成	在庫品増加	政府支出 輸出－輸入

## 4. 世界各国のGDP-1

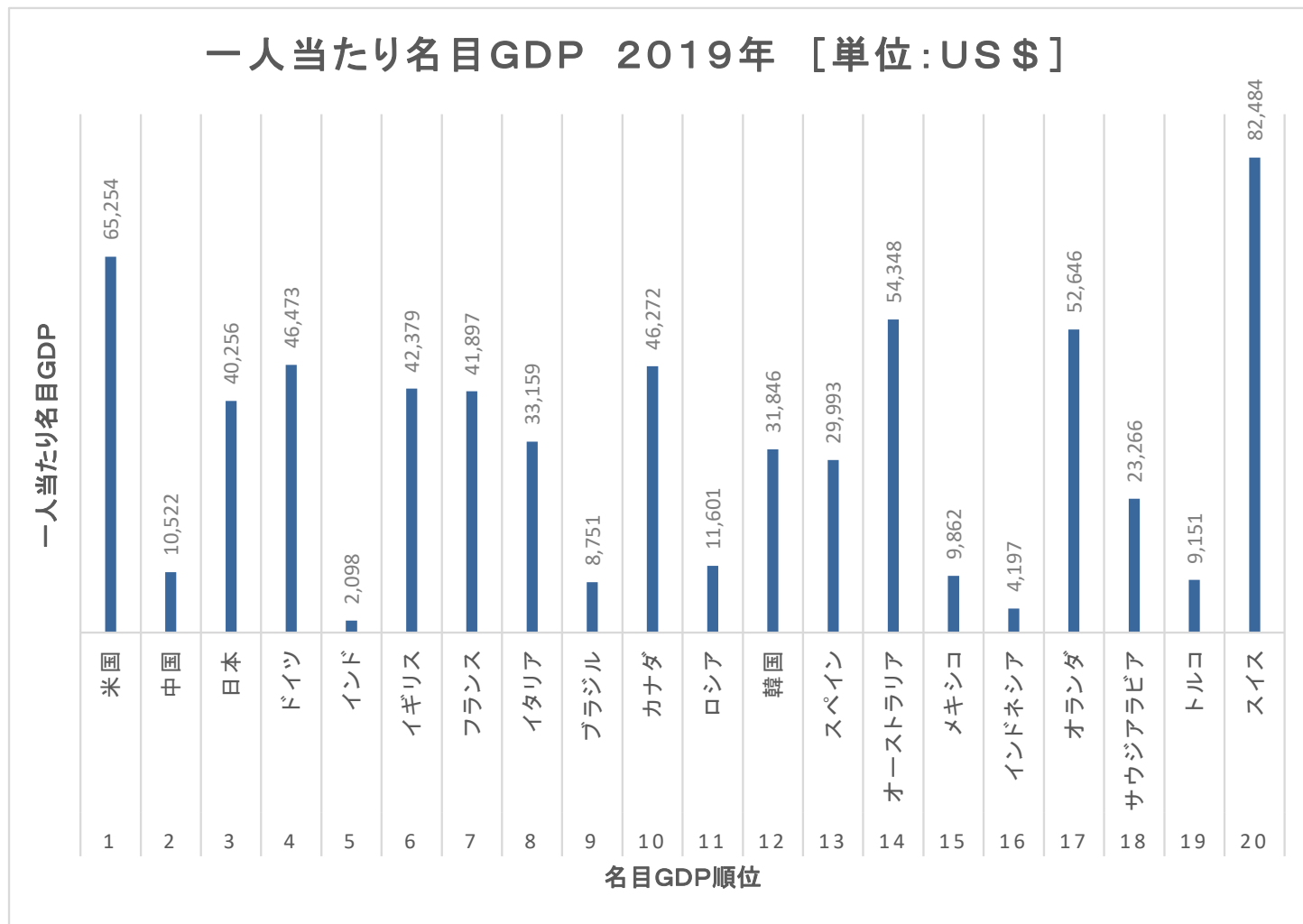
◎名目GDP 2019年



出典:IMF統計データ

## 5. 世界各国のGDP-2

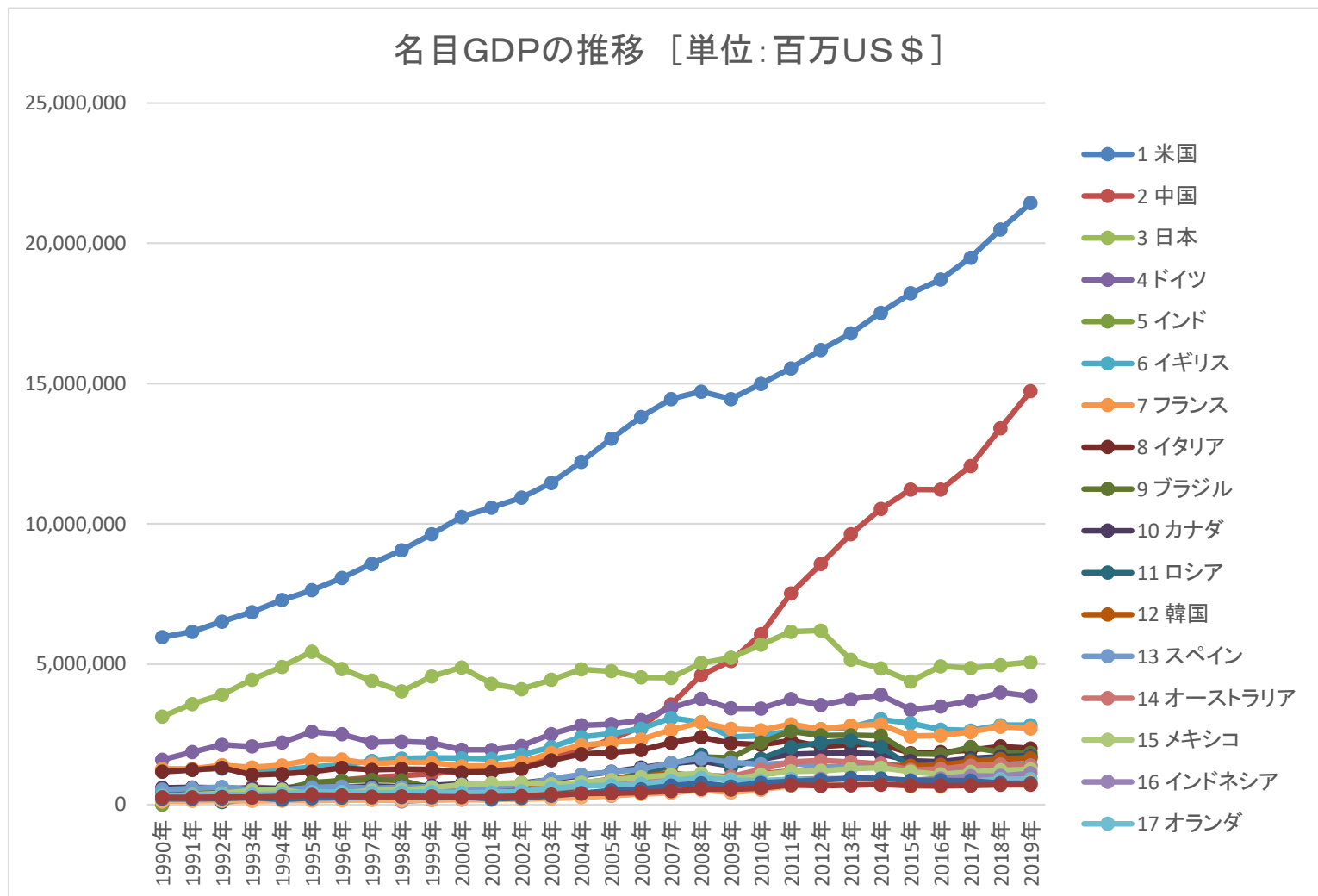
### ◎一人当たり名目GDP 2019年



出典:IMF統計データ

## 6. 世界各国のGDP-3

### ◎名目GDPの推移

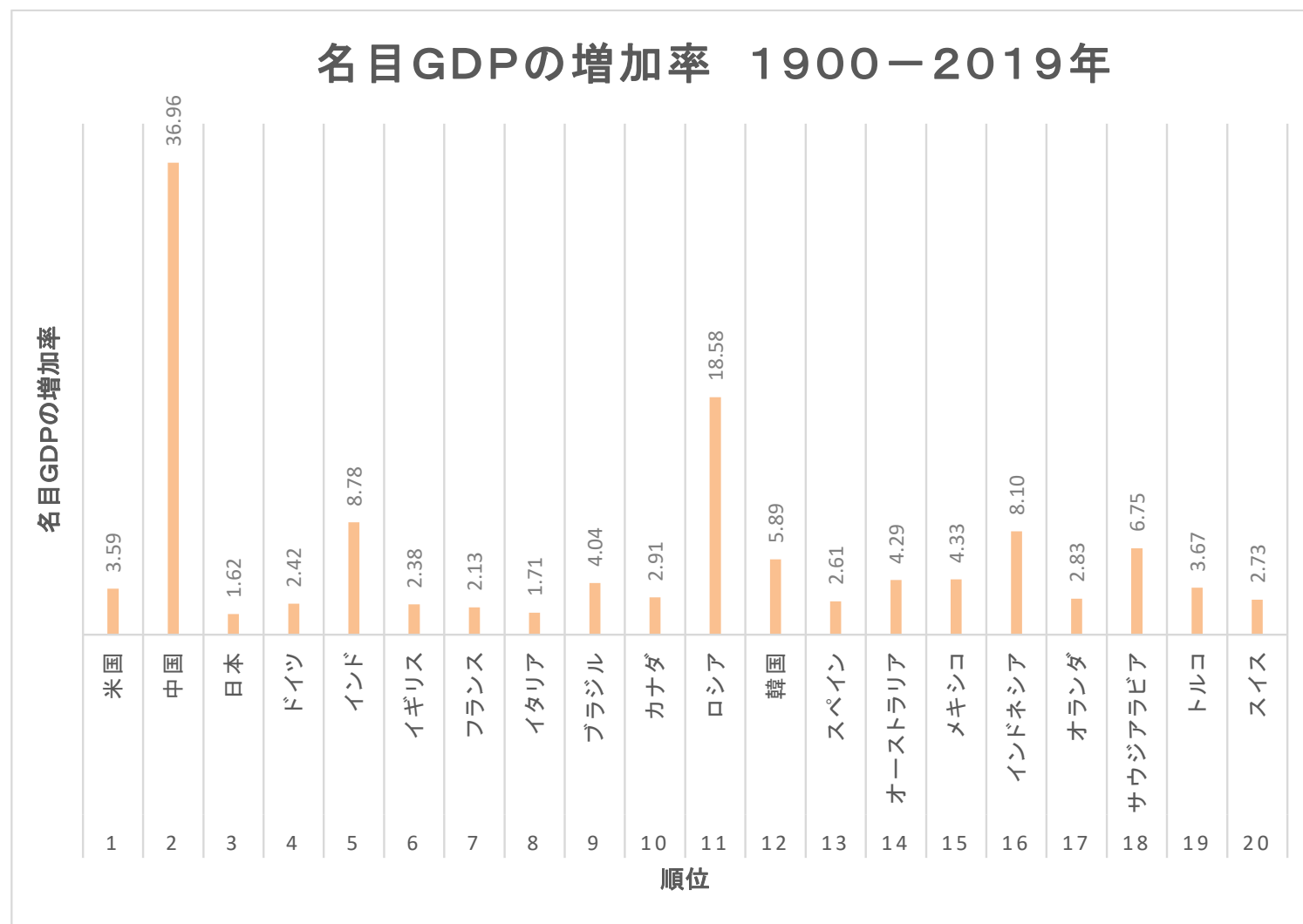


出典:IMF統計データ



## 7. 世界各国のGDP-4

### ◎名目GDPの増加率



出典:IMF統計データ

## 8. 世界各国のGDP-5

### ◎名目GDP 2019年のIMF統計データ[図表 名目GDP 2019年]

1位:米国、2位:中国、3位:日本、4位ドイツ~の順となっています。日本は中国に抜かれて3位ですが、日本円で500兆円程で、米国・中国以外の諸外国と比較しても、依然、大きな経済規模を保持しています。

### ◎一人当たり名目GDP 2019年[図表 一人当たり名目GDP 2019年]

1人当たり名目GDPが高い順に、1位:スイス、2位:米国、3位:オーストリア、4位オランダ、5位:ドイツ~の順となっていて、日本は9位であり、決して高くはありません。(上記GDP上位20位までの国での比較) このため「日本の生産性は欧米と比較すると低い」と言われています。

### ◎名目GDPの推移[図表 名目GDPの推移]

このグラフは、1990年から2019年までの各国のGDPの推移を示しています。2010年に日本は中国にGDPの規模で抜かれそれまでの2位から3位になり、さらにその差は開いていく一方です。グラフを見れば一目瞭然で、日本のGDPだけが、30年間、増加していません。

### ◎名目GDPの増加率[図表 名目GDPの増加率]

この表は1990年を基準に2019年のGDPがどの程度増加したのかを示しています。中国のGDPは36.96倍にもなっています。経済規模が最大の米国でさえ3.59倍、欧州の国々でも2倍強程度になっています。一方、日本は1.62倍です。世界でGDPの伸び率が一番低かった国、それが日本なのです。

## 9. 日本のGDPについて

◎日本のGDPの状況を簡単にまとめると以下の通りです。

- ・日本のGDPは、世界3位で、概ね500兆円程度の規模を保持している。
- ・一人当たりのGDPは欧米と比較すると低く、生産性が低い。
- ・日本のGDPは、30年間、成長しない状況が続いている。

この30年間での一番の問題は、GDPが成長していない点です。

もし、日本のGDPが欧州並みに2倍強程成長していたら、少なくとも6～700兆円程にはなっていたはずです。

なぜ、30年間もの間、日本はGDPを成長させることが出来なかったのか、その分析が必要だと思います。

## 10. まとめ(考察)

### ◎国の経済政策

マクロ経済面で、政府が実施できる政策は次の2つしかありません。

- ・財政政策 : 税金による支出、国債発行による支出
- ・金融政策 : マネーストック(お金の量)の調整、金利の調整

### ◎30年間継続している日本の経済政策

- ・プライマリーバランスを目標にした、財政支出削減、消費税導入・税率上昇
- ・その結果、  
消費抑制、デフレ化推進 → GDP停滞

しかし一方で、各省庁が実施する、実際の実務レベルでの施策などがあります。

例えば、経済産業省では、中小企業支援のための、経営革新、経営力向上、ものづくり補助金などの施策があり、いずれも事業計画においての目標を付加価値の向上(年3%、3年で9%、5年で15%以上の向上など)に主眼をおいています。(つまり、実務レベルではGDPを増加させることを目標としています。)

マクロ的にもGDPを成長させること目標にした、  
財政政策・金融政策(異次元の金融緩和実施中)の転換が必要

夢と技術の経営研究所  
[www.yumegi.com](http://www.yumegi.com)